



大阪プロバスクラブ

会報 第392号

2024年5月8日発行

Monthly Bulletin of

The Probus Club of Osaka

例会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111

例会日：2022年7月より毎月第2水曜日 12時～14時

○創立 2001（平成13）年7月9日創立記念式 7月16日

○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ

○友好クラブ：箕面ロータリークラブ

○会長：山下恵司 ○幹事：川端崇且 Tel：090-2702-7212

○事務局：（幹事宅）〒562-0044 箕面市半町 2-5-23

○会報担当：西宮富夫 pxi06603@nifty.com

○大阪プロバスクラブ会報：<http://osakapurob.exblog.jp/>

○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>

（R4年11月の第10回総会で決定された新体制）

会長 田中信昭、幹事長 一瀬 明、会計 飯田富美子

○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版：

<http://probuscent.exblog.jp/>

R6年4月初旬～R6年5月初旬までの更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報 第225号	3月11日ひな祭り例会、山本秀勝会員のマジックショー、ハッピーボックス、他
東京八王子	プロバスだより 第341号	卓話「私の履歴書」河西成幸、3月20日八王子市立小学校・中学校合唱祭開催、カラオケ同好会、美術鑑賞同好会、ハッピーコイン、俳句同好会便り、他
姫路南（二水会）	会報 第122号	「東大入試」長谷川一彦会員、「アメリカからの来客」川本祥子会員、「第3の道のABで」岡本浩一会員、3月例会卓話「『ルポ 食が壊れる』を読んで」稲田健太郎会員、他
神戸北	6年5月例会案内	5月2日朝日新聞阪神工場＆甲子園歴史館見学、4月4日観桜会報告（会員8名、ゲスト6名、他クラブ8名、計22名参加）、他
赤穂	会報 第47号	10月例会：会員卓話（3分スピーチ）、11月例会：工場見学（ジオマテック株式会社）、12月例会：忘年会、1月例会：卓話「易断（占い）」赤松章伸（手相鑑定士）、他
大阪	会報 第391号	卓話「百名山のぞきを開始しましたがコロナでストップしました」永田慎一会員、近況報告「富山へ海鮮を食べに行ってきました」田中浩三会員、例会の話題「北急延伸によるバス路線再編」、他
奈良	会報 第119号	会長の一言、4月26日古代メキシコ展見学会（中の島：国立国際美術館）、親睦交流-神戸北プロバスクラブの皆様と、同好会報告・予定（日本酒の会、古典芸能鑑賞会、カラオケむつまじい）、他

- 大阪プロバスの歌（作詞：渡辺 孟 補詩：田村徳郎）
- ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
 - ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
 - ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い 明日も愉快地に生き抜こう

●茶摘み（作詞・作曲：不詳）

夏も近づく八十八夜

野にも山にも若葉が茂る

あれに見えるは茶摘みぢやないか

あかねだすきに菅（すげ）の笠

前回 第392回 観桜会 2024年4月10日（水）
会場：箕面公園音羽山荘 12：00～14：00

（会報担当より：当日、例会場前の滝道の新緑や山桜がきれいで、例会前に散策する会員もおられた。）



音羽山荘前の滝道と新緑

◎第392回移動例会（音羽山荘）

○司会進行：伊丹谷五郎会員

○山下恵司会長挨拶：4月4日神戸北の観桜会へ行ってきました。奈良からは7名が参加されました。

8月の全日本五所川原大会参加スケジュールが決まりました。専門家の田中会員に幹事をお願いしました。

○川端崇且幹事報告：今日は早めに来て、西江寺にお参りし、滝まで行ってきました。近くには富くじ発祥の瀧安寺もあります。皆さんもどうぞ。

3月18日奈良プロバスクラブ10周年記念式典に5名参加しました。

次回5月8日は例会後理事会開催の予定。

○出席報告：今回は会員12名、ゲスト鎌田美智子様計13名参加との報告。（鎌田さまは今、箕面に住んでいます、以前12年間パリ15区に住んでいたとのこと。）

今回 第393回 通常例会 2024年5月8日（水）

会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

◎観桜会

○司会進行：浅山紀久子親睦委員長

○食事タイム

●観桜会の話題

★田中浩三会員より全日本五所川原大会参加スケジュールの概要説明あり：

8月8日伊丹発青森着→五所川原→青森、

8月9日自由行動、

8月10日青森発伊丹着

★滝道沿いの瀧安寺など有名施設の件

・瀧安寺（以下、Wikipediaより引用）は、滝道沿いにある本山修験宗の寺院。山号は箕面山。宝くじの起源である富籤（くじ）発祥の地とされている。お金ではなく、お守りを配る古式に則った富籤を2009年に復活させ、毎年10月10日に行っている。

寺伝によれば658年（一説には650年）に役小角が箕面滝の下に堂を建設し、本尊の弁財天像を安置し、「箕面寺」と命名したのが始まりである。平安時代の『梁塵秘抄』に「聖のすみかは何処何処ぞ、箕面よ勝尾よ」と歌われている。後醍醐天皇が隠岐に島流しになった際には、護良親王が当寺に帰還祈禱を依頼したという。その後「瀧安寺」という寺号を賜ったとされる。



（画像引用元：「箕面山龍安寺」トップ画面より）

・その他、橋本邸、自習堂、西江寺他省略

★全日本プロバス協議会第1回大阪会議の件

（以下、大阪プロバスクラブ会報第70号より引用）

中村会長報告：「プロバス大阪会議無事終了」

2004年5月23日に、予定通りJR大阪弥生会館ホテルにおいて、「**全日本プロバス 2004 大阪会議 2004.5.23**」が開催され、諸事滞りなく無事終了致しました。

当日正午前に開会、とりあえず参加者全員で昼食をとり、先ず、堺プロバスの佐々木一頼会長が、発起人を代表していままでのいきさつを説明。ついで、発起人の一人である神戸北すずらんプロバスの吉川幹事から、議長選任の動議があり、当日ホストの大阪プロバスクラブ中村 健会長が議長に就任。続いて上記吉川発起人から議案の説明、会則案の説明、および役員選任についての提案があり、同じく発起人の一員であるプロバスクラブ京都金森正夫会長から賛成の意見表明があった。会則案および初代役員案については、既提出の原案通り異議なく可決した。

よって、
会長に大阪プロバスクラブ会長中村 健、
副会長に北九州プロバスクラブ副会長岩崎勝次、
東京八王子プロバスクラブ会長立川富美代、
神戸北すずらんプロバスクラブ幹事吉川哲朗、
会計監査にプロバスクラブ京都幹事内山勝利、
鈴鹿西プロバスクラブ会長松本裕夫、
幹事長に大阪プロバスクラブ幹事長谷川元耶、
がそれぞれ就任した。

（中略）当日の出席者は、本日現在の全日本における87クラブに対して、33クラブ（九州北部センター6クラブを含む）の代表として、155名が出席した。



大阪プロバスクラブ第392回例会（於：箕面公園音羽山荘 2024年4月10日）

◎北急延伸終着駅「箕面萱野」について

(前回会報 391 号北急延伸記事の追加記事)

(会報担当より：2024 年 3 月 23 日の北大阪急行延伸の結果「箕面萱野」が終着駅となった。江戸時代萱野氏の領地であった「萱野」地区には「萱野三平旧邸」があり、「萱野」は箕面市を特徴づける重要な地域名である。その地域名が終着駅名に採用された意義は大きいので「萱野」について簡単に整理することとした。)

●北急延伸終着駅「箕面萱野」

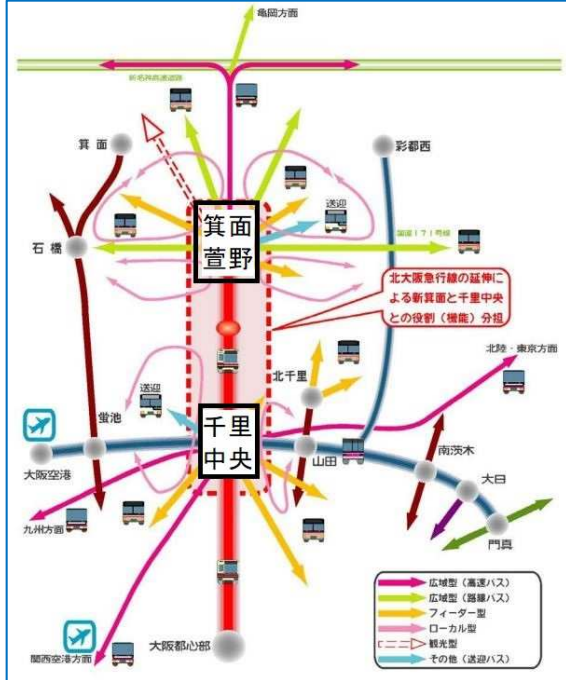


図 新箕面と千里中央の将来交通機能イメージ (第 3 回協議会 H21. 2. 16 資料 3 より)

●「萱野」の範囲 (Wikipedia より抜粋引用)

広域地名としての萱野地区としては、旧萱野村にあたる地域全体を指し、(丸印を付けた) 現住所表記の船場西、船場東、稲、坊島、西宿、今宮、石丸、白島、如意谷地区等も含まれる。萱野は萱野三平で有名な萱野氏の領地。

(下図の丸印で囲まれた範囲が「萱野」で、箕面萱野駅が萱野の中心辺りであることがよくわかる)



(画像引用元：大阪府箕面市 (27220) | 国勢調査町丁・字等別境界データセットより引用)

●赤穂事件と萱野三平

(会報担当より：国道 171 号を走ると「萱野三平」という交通標識が目に入り、誰でも「萱野」が赤穂事件と直結していることを思い起こす。瀧安寺、勝尾寺など有名寺院もあるが箕面市を特徴づける歴史地区と考える。)

(以下、「48 人目の赤穂義士 萱野三平重實のふるさと みのお 萱野三平重實旧邸」より)

赤穂事件は、江戸時代 元禄 14 年(1701) 3 月 14 日、幕府勅使饗応役の浅野内匠頭が高家肝煎の吉良上野介義央に江戸城松の大廊下で刃傷事件に及んだもので、この時、赤穂藩江戸上屋敷にいた萱野三平と早水藤左衛門満亮が事件の第一報を赤穂に知らせる使者として、14 日午後に赤穂藩邸を立ち、赤穂に向け 155 里 (620km) を早駕籠に揺られ続け、19 日未明に主君の不幸な事件を地元赤穂に伝えました。(中略) 萱野三平の自邸前を通り過ぎた際、母小満の葬式に出会いましたが、(中略) 葬儀にも参列せず、母の死の悲しみを抱えながらも赤穂に急ぎました。



(現在の西国街道と萱野三平旧邸) (会報担当撮影写真)

★萱野三平の俳号は「涓泉 (けんせん)」

江戸時代の貞享元禄期は、(中略) 赤穂藩でも江戸詰の藩士が、水間沾徳 (みずませんとかく=1694 年に松尾芭蕉、1707 年に宝井其角が没すると江戸俳壇の「大宗匠」と仰がれる) に師事し、特に大高源吾忠雄 (子葉)・神崎興五郎休 (竹平)・萱野三平 (涓泉) の技術は当時の俳諧人にも広く認められていました。

(中略) 萱野三平は赤穂城開城後、箕面に戻っていた頃、大高源吾忠雄とともに箕面山や箕面大滝、勝尾寺などを訪れ、俳句を残しています。

★萱野三平の辞世の句

萱野三平は、赤穂藩の取りつぶしの後、赤穂城開城とともに箕面に戻り生活をしながら、仇討ちの一族に名を連ね、江戸に東上することを願っていました。

しかし、萱野三平を推挙した大嶋家に迷惑が及ぶことを思慮した父が仇討ちを察してこれを許すことはありませんでした。

このため、父への孝行と内匠頭への忠義の板挟みに苦悩し、同志と共に約束を果たせぬ罪を詫げる気持ちと同志の奮起を祈る気持ちをしたため、萱野三平は主君の月命日である元禄 15 年(1702 年) 1 月 14 日自宅長屋門の一室で自刃し、27 才の短い生涯を閉じました。

辞世の句 晴れゆくや日頃の心の花曇り 涓泉

●朱子学と論語

(会報担当より：萱野三平は忠義と孝行の板挟みに苦しみ、自刃したことから、元禄時代は徳川幕府の推奨した朱子学やその最重要な書物「論語」が武士の生き方に強い影響を及ぼしていたと想像する。)

★朱子学

(以下「日本史辞典.com【朱子学とは】簡単にわかりやすく解説」より抜粋引用し、整理した。)

朱子学において重要な上下関係ですが、何かが存在するという事は常に上位の物によって存在させられているということ考え方を取ります。つまり、儒学において重要視されていた「仁」(仁義=人を愛すること)より「礼」を最重要視するようになっていきます。自然や万物に上下関係・尊卑があるように、人間社会にも同じように上下関係や差別があって然るべきという考え方です。これは「君臣父子」の別といい、「君主の言うことを臣下は絶対に聞くこと」「父の言うことを子供は絶対に聞く」という朱子学の「礼」を重要視する考え方です。江戸幕府においても朱子学が採用され、幕府公認の学問となりました。そして、日本でも朱子学を重んじる封建社会の全盛期がやってくるのです。

★論語が大流行

(以下、学問の基礎だった江戸時代の『論語』より抜粋引用)

徳川幕府は朱子学を推奨し、代表的な書物である「四書五経」が注目されるが、『論語』はその中でも重要な書物、学問への入り口として普及していく。

(中略)江戸時代、武士は文武の教養を積むことを求められ、「藩校」で『論語』を学んだ。一方、庶民階級では「寺子屋」が普及し、日常生活に必要な教養を身に付けていった。また、藩校や寺子屋以外にも江戸時代は「塾」ができる。人気の塾は門人が3000人以上いたところもあるという。

★藩校・寺子屋

(以下、文部科学省 幕末期の教育より抜粋引用)

昌平坂学問所は江戸時代において藩校の模範ともいえるべき地位を占める。(中略)藩校の中で創立が古く、また規模も大きく著名なものには名古屋藩の明倫堂、会津藩の日新館などがある。(中略)また岡山藩主池田光政によって設立された花鳥教場も創立の古い藩校である。

(中略)著名なものを創立年代順に列挙すれば、米沢の興譲館、佐賀の弘道館、和歌山の学習館、萩の明倫館、仙台の養賢堂、熊本の時習館、鹿児島島の造士館、金沢の明倫堂、(中略)水戸の弘道館などがある。

江戸時代の庶民は、(中略)日常生活に必要な教養をつむべきものと考えられた。庶民の教育は、一般に家庭生活および社会生活の中で行なわれた。当時は、徒弟奉公や女中奉公などの奉公生活、また若者組などの集団生活が広く行なわれ、その中での教育も重要な意味をもっていた。

(中略)寺子屋は、庶民の子どもが読み・書きの初歩を学ぶ簡易な学校であり、江戸時代の庶民生活を基盤として成立した私設の教育機関である。(中略)幕末には江戸や大阪の町々はもとより、地方の小都市、さらに農山漁村にまで多数設けられ、全国に広く普及した。

明治五年に学制が公布され、その後短期間に全国に小学校を開設することができたことは、寺子屋の普及に負うところがきわめて大きいといえる。

●活気があった元禄文化 (元禄文化 Wikipedia より引用)

元禄文化は江戸時代前期、元禄年間(1688年 - 1704年)前後の文化。17世紀の中期以降の日本列島は(中略)ゆたかな経済力を背景に成長してきた町人たちが、大坂・京などを中心にすぐれた作品を数多くうみだした。

★「忠臣蔵」の誕生 (赤穂事件 Wikipedia より引用)

元禄15年12月14日(1703年)主君の遺恨を晴らすべく命をかけて吉良邸に討ち入った四十七士の行動は民衆から喝采を持って迎えられた。(中略)赤穂浪士の討ち入りがあってからというもの、事件を扱った物語が歌舞伎、人形浄瑠璃、講談、戯作などありとあらゆる分野で幾度となく作られてきた。その中でも白眉となったのは浅野内匠頭の刃傷から47年後に作られた人形浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』である。(中略)本作以降、赤穂事件を扱った創作物は忠臣蔵ものと呼ばれる事になる。

★松尾芭蕉 (元禄文化 Wikipedia より引用)

・松尾芭蕉(1644年-1694年)は、江戸時代前期の俳諧師。(中略)滑稽や諧謔を主としていた俳諧を、蕉風と呼ばれる芸術性の極めて高い句風として確立し、後世では俳聖として世界的にも知られる、日本史上最高の俳諧師の一人である。

・元禄2年3月27日(1689年)に弟子の河合曾良を伴い江戸を発ち、東北から北陸を経て美濃国の大垣までを巡った旅を記した紀行文『おくのほそ道』が特に有名である。

★曾根崎心中 (元禄文化 Wikipedia より引用)

・『曾根崎心中』は元禄16年4月7日(1703年)早朝に大坂堂島新地天満屋の女郎「はつ(本名妙、21歳)」と内本町醤油商平野屋の手代である「徳兵衛(25歳)」が西成郡曾根崎村の露天神の森で情死した事件を題材にしている。

・人形浄瑠璃『曾根崎心中』の初演は元禄16年5月7日(1703年)の道頓堀にある竹本座での公演であった。世話物浄瑠璃(江戸時代における現代劇浄瑠璃)。近松門左衛門作。のちに歌舞伎の演目にもなる。

5月に
国立劇場
の文楽鑑
賞教室で
上演する
『曾根崎
心中』の
チラシ



次回 第394回 通常例会 2024年6月12日(水)
会場: ホテルモントレ大阪 12:00~14:00